

経営メッセージ

挨拶メモ 2025年 2月 7日

文書化 2月 9日

改訂 2月 14日

社員旅行大宴会でのスピーチ 於山梨常盤ホテル

今年の創立記念日の11月10日には新社長が誕生します。今回の社員旅行は、先輩社員への感謝と中堅若手への激励の集い、未来を語り楽しんで貰いたい。

代表取締役社長 石和田 雄二

1. はじめに ～ 工作中的仲間も含め全社員への感謝と旅行関係者への御礼
旅行参加の社員の皆さん、お疲れ様です。

東京、名古屋、大阪から240名近くの社員が参加、旅行前半の日程も無事終え、
由緒あるホテルのこの大宴会場に、社員一同で集うことが出来ました。

企画・準備と実施を担当した旅行委員の皆さん、ご苦労様でした。

また、楽しいバス旅行を支えて頂いた運転手と添乗員の皆さま、

そしてホテルの従業員の皆さま、誠に有難うございます。

仕事などで参加できなかった社員も参加者の倍以上の人、500名近くいますが、
夫々の立場・役割の社員のお陰で、今期の業績も計画通り進んでいます。

前期の売上68億に対して今期の着地見通しは、15%増の78億円、

利益は、前期1億8千万円の3.5倍、6億3千万円です。

前々期の問題を引き摺っていた前期の業績が低かったこともあるが、

社員の皆さんの日頃の努力があつてこそその成果、努力と協力に厚く感謝します。

経営側の準備不足で旅行の実施が遅れたが、これからがラストスパート、

英気を養って、来期に向け一段と頑張つて貰いたいと思います。

2. 社員旅行について ～ 当社の伝統行事で沢山の思い出が詰まっている

社員旅行は、当社アイヴィスの伝統かつ恒例の行事です。

創業翌年の伊豆高原旅行からコロナ前の2019年の阿智川の昼神温泉旅行まで、
途中で、運動会や部門別・地域別の旅行に変えたこともありましたが、

基本は一貫して社員全員が一堂に会する旅行を目指しています。

普段は仕事以外余り話すこともない上司や先輩と語り合う場であり、

仕事や技術を離れて、社員の個性や人間性、考え方に触れられる場でもある。

当社は、新入社員向けの集合技術研修を30年近く東京本社分室で行っているが、
同期の仲間が久し振りに集い、互いの成長や未来の夢を語り合う場でもある。

社員旅行は、個人にとっても意義のある行事であるべきなのです。

コロナで暫く自粛していたが、業績も回復、伝統行事の再開を指示しました。

会社と共に成長して来た社員旅行の思い出を、時折、懐かしく思い出します。会社の創立は 36 年前の 1988 年 11 月 10 日、立上げた時の社員は、今は亡き南波と若かった頃の諸見川がいるだけ、第一回の旅行は翌年の創立記念日、社員数は既に 10 数名に増えていたが、社員だけでは貸し切りバスも使えず、社員の奥さんや幼い子供を連れ、私も家内と共に家族同伴のバス旅行でした。その子供達も今では立派な社会人となっており、隔世の感を禁じ得ません。社員数が 100 人を超え、多くの若者達が入社する様になり、社員旅行も一変しました。麻雀やカラオケを楽しむ人もいれば碁の高段者や手品の天才の様な人もいて、二次会で夜中過ぎまで IT や会社の未来を語り合う元気な若者達もいました。社員の豊かな個性に驚いたことを覚えている。当社の HP サロン欄に掲載中の今村さんや大野、小川、古賀さんなど大きな節目で指導をしてくれた人達との旅行の思い出を媒介に、彼らと共に過ごした時代と日々も懐かしく思い出す。最後の社員旅行は下伊那の昼神温泉、バス 6 台、200 名以上の社員が参加、宴会場に居並ぶ社員の壮観さが印象的で、今回の全社旅行にも繋がりました。

今回の旅行は業績に確信が持てた 9 月に断を下した為、時期的に遅れました。伝統の社員旅行は 11 月の創立記念日前後、私も高齢で今年の創立記念日には社長を退任する予定、新社長就任に伴う行事や実務で忙しい時に重なります。社員旅行についても今回は私の希望で全社員対象として貰ったが、これからは社員が等しく参加できる様、部門別、地域別に企画し調整するのが好ましい。創業から新たな第二の創業へと向かう時、従来型の旅行もこれが最後となる。

3. 当社の未来の可能性 ～ 来期、そして 3 年後 5 年後、前途洋々

話は変わるが、私は昨夜も 10 時過ぎまで誰もいない事務所で一人深夜作業、来期以降の 3 年計画の検討をしながら社内各層の報告メールを整理していた。当社の新 3 年計画は、今期を調整年として 4 月から始まる 25 年度から 3 ヶ年間の計画だが、最終年度の目標は、売上高 100 億円、年間賞与 5 ヶ月を達成し、業界の先頭集団を迫る平均年齢 33 歳の成長力溢れる 1 千名の技術集団である。メールは都度見ているが、週末に部門別に 2 週間分を読直して整理している。昨夜は先進技術から顧客対応の各部門、名古屋大阪の状況推移を俯瞰したが、各部門とも成長分野の延長での業務拡大に加え、最新技術により作業が一段と充実していることを確認、当社 IT サービスの底堅さを改めて実感しました。

その背景には、資本提携関係にある NTT データ G、トヨタシステムズ、BIPROGY、3 社との実務ベースの業務連携が着実に進んでいることと共に、過去に多くの困難を乗り越えて来た当社の経験豊かなベテラン管理者の下、未来を拓く先進技術部隊の存在と社員の 6 割を占める若手の成長があります。この 4 月には、加えて院卒 3 割を含む優秀な新卒社員 130 名が入社して来る。基盤再構築や生成 AI を軸に DXGX の国内 IT サービス産業の需要は底堅く、人材、技術、顧客信用を考えれば、3 年後 5 年後の当社の未来は前途洋々だ。

4. 未来に向けて ～ 仲間達の汗と涙に感謝、新たな未来に向けて頑張ろう
創業から今日の姿になるまで、多くの人に支えられ、困難な山を越えて来ました。創業期の仲間と共に三菱総研の MELCAD から始まり、ネットサイト構築の UNETSURF、JECC の地籍や日本総研の決済を経て、バブル崩壊後には東レのアパレル、ユニシス CADCEUS や CDS3000 ネット、山武の昭石プロ、NTTDT のバックオフィス、サッポロの流通基盤、NASA の GENOA を乗越えて来た。その後、理研脳科学に参入、トヨタの TIOS・面達、松下の車載 PDM、ANA の搭乗を立上げ、近年は防衛省の画像 JAIRO、海事協会の構造計算、再春館製菓のコールセンター、A&T 医療検査、D 社の就職情報などを越えて今日がある。困難な作業への挑戦と克服への努力と成果が当社の顧客信用基盤を創っている。仲間達の汗と涙、困難を克服して一段と成長した姿など、暇を見て書き残したい。

先程も触れたが、11 月には新社長を迎え、第 2 の創業に向けたスタートを切る。その意味で来期は当社経営の一大転換期、将来への大切な節目の年度となる。組織体制の整備を進めながら基盤整備 3 年計画の初年度として、計画通り、技術者 900 名への足掛りと売上 86 億円、増収増益を達成する。その後は、新体制の下、皆さんとのチームワークで新基盤整備 3 年計画を達成、高い技術力と安定した経営基盤の上で、その先の当社の未来を拓いて貰いたい。

5. むすびに ～ 有難うございます。思いっきり楽しんで下さい。

今日の社員旅行は、社員への感謝と共に中堅若手への期待激励の会であります。ここまで来ることが出来たのは、活躍の場を与えて下さった多くのお客様のご配慮と共に、課題を越えて成長する日頃の社員の向上心と当社伝統の技術文化があり、数々の困難を超えて成長を支えた仲間達の努力と工夫、協力があつてのことだ。此処にいる創業以来の旧社員の努力に感謝しつつ当社の未来を拓く中堅若手の一層の努力と奮起を期待し、私にとっての最後の全社旅行での挨拶としたい。いろいろと有難うございました。今日は思う存分、楽しんで下さい。（了）